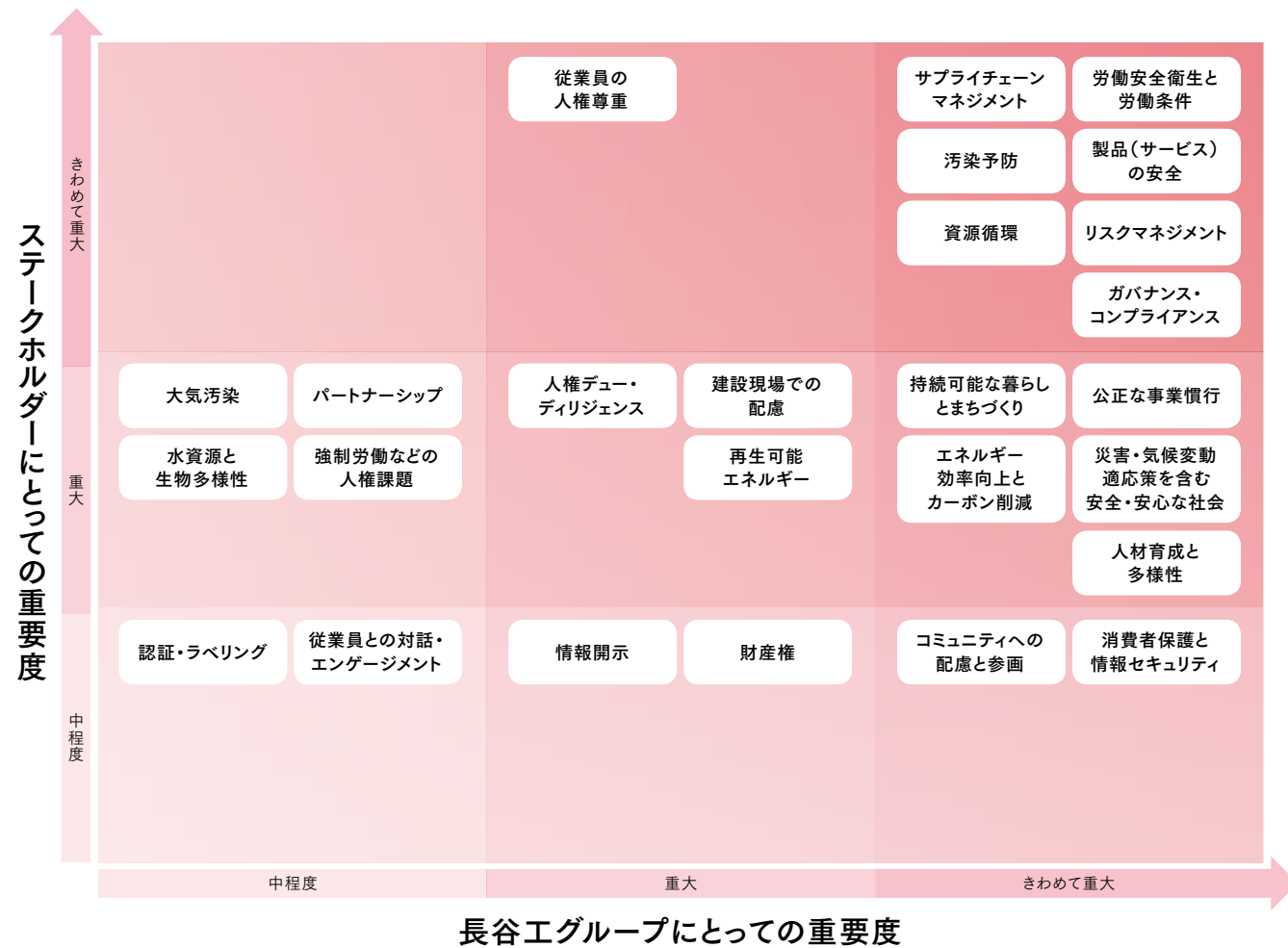


# 長谷エグループのマテリアリティ・マトリックス

WGでの議論と評価を通じて、網羅的な社会・環境課題項目の中から、社会軸（ステークホルダーにとっての重要度）と、事業軸（長谷エグループにとっての重要度）で評価、項目をマッピングし、26項目の重要課題を特定しました。



## 今後のCSR取り組み推進

### CSR推進体制

長谷エグループでは、従来から環境・社会活動に取り組んできました。2010年4月に「グループ環境推進委員会」を設置し、地球温暖化対策や生物多様性保全、ISO14001の認証維持について年度ごとに方針を立て、関連部署で実行してきました。

この体制を強化し、長谷エグループとしてより力強くCSRを推進するために、2017年4月に長谷エコーポレーションにCSR部が発足しました。また、グループ各社の社員によるWGを組成し、長谷エグループが目指すべきCSRの姿について議論しています。

2017年度は、長谷エグループとしての「CSRビジョン」「CSR方針」「4つのCSR取り組みテーマ」の策定に取り組

んできました。

2018年度はさらに一歩進んで、具体的な行動計画フレームワークの策定とマネジメント体制の整備などを進めています。長谷エグループは、今後もグループ横断での議論を重ねながら、継続的にCSR取り組みの深化を図っていきます。

### 情報開示の強化

『長谷エグループCSR報告書2018』やWebサイトなどを通じて、お客様、取引先、従業員、株主・投資家、地域社会など、幅広いステークホルダーの皆様積極的に情報開示を行ってまいります。ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを重視し、いただいたご意見やご期待、ご要望をグループの取り組みに活かしていきます。

## CSRを確固たる軸として据え、 グループ一丸で「大切な暮らし」を 支え続けていきます

長谷エコーポレーション 執行役員  
熊野 聡



### 幕を開けたグループCSR活動

長谷エグループは、2017年2月に創業80周年を迎えました。「おかげさま」の気持ちあふれる、この大切な節目の年の4月に、私たちはCSR部を発足しグループCSRの取り組みを開始しました。

活動の指針となるCSRビジョン策定にあたっては、グループの未来を担う若手社員を中心としたワーキンググループ(WG)による議論を重ねてきました。グループの様々な分野で活躍する社員たちが集まり方向性を決めるプロセスには、大変な苦勞を伴いつつも、メンバーは集中力を発揮し健闘してくれました。今回のWGの作業は、グループ横断で多様な価値観の軸を築くこと、そして一人ひとりがCSRを自分ごととして捉える意識を醸成するという意味でも、大きな意義があったと感じます。

長谷エグループは昔から、新しいことに挑戦する気概を持ち合わせています。CSRは、トップの意志と社員の自発的な行動を融合し、全員が一丸となって取り組むことが大切です。私たちの育んできた企業風土をこれからの活動にも活かしていければと考えています。

### 「盤石な土台」の構築を目指して

今回、CSRビジョンを策定したことで、グループCSRの土台を築くことができました。しかしこの土台はまだ盤石とは言えません。ようやく社内にCSRの用語が飛び交い、言葉を頭で理解できるようにはなりましたが、大事なのはこれから先です。

長谷エグループには「長谷エDNA」という言葉がありますが、私の考える「長谷エDNA」は、目標達成、行動、団結、そして工夫する力の4つです。特に最後の「工夫する力」が、他社には真似できない独特のビジネスモデルを生み出し、維持

することにつながっています。一人ひとりが自ら考えて行動し、団結して成果を出していくからこそ、長谷エグループは存在しているのです。私はこのDNAの中に、「大切な暮らしを、もっと、ずっと。」というCSRビジョンが織り込まれていくことが重要だと考えています。

これから具体的な施策を掲げてPDCAを回していく中で、一人ひとりの社員が「CSRとはこういうものだったのか」と腹落ちするようになるでしょう。これからは、仕事の中で判断に迷ったとき、原点確認のためにCSRビジョンやCSR方針を思い起こすところまで浸透していけば理想的だと思います。

### 真摯に、そして誠実に、未来へ向けて歩み続ける

1990年代のバブル崩壊後、長谷エグループは会社継続の危機に直面しました。そのとき、株主の皆様をはじめ、取引先、協力会社、エンドユーザーの皆様、あらゆるステークホルダーの皆様が生かされて今日があると痛感しています。私たちは、企業として利益を上げながら、お客様を大切に、社会のお役に立つ「三方よし」の精神で、皆様にご恩返しをしなければと考えています。「住まいと暮らしの創造企業グループ」として、衣食住の「住」という、人の生活に欠かせないものに携わる責任と誇りを忘れてはなりません。真摯に、そして誠実に価値を生み出していくことがすべての原点であるかと思っています。

時代とともに事業環境は変化し、長谷エグループにもさらに多様な社員を迎えていくことになるでしょう。そうした変化の中で、CSRへの取り組みを深化させ、創業100周年、120周年、さらに未来へと継承し続けていくためには、不断の努力が求められます。ステークホルダーの皆様には、これから始まる長谷エグループのCSRへの挑戦に、ぜひご期待いただければと思います。